

- |    |                     |      |    |   |
|----|---------------------|------|----|---|
| 1  | ブータンの大学生らの福井訪問      | 月原敏博 | 20 | 幸せについて考えるブータンミュージアムを運営する<br>仮認定NPO法人 幸福の国への支援のお願い |
| 3  | 人生を左右する「心のおきどころ」    | 田中幸一 | 21 | ブータンミュージアム活動記録                                    |
| 6  | 最近のクエンセル記事より一そのII   | 奥村彰二 |    | これからの活動予定   |
| 10 | ブータン王国チョモラリ峰BC踏査    |      | 22 | ブータンミュージアム4周年記念事業のご案内                             |
|    | 福井県山岳連盟 会長 牧野治生     |      | 25 | 小玉みさをさん絵手紙作品紹介 Part 7                             |
| 13 | 雑感 幸福度ランキングに見る福井県の姿 |      | 26 | 幸せの映画上映・ハピネスコンサートへのお誘い                            |
|    | これからの幸せ 栗原哲朗        |      | 27 | 編集後記  |
| 18 | アジアの村を歩く⑬           | 松田宗一 |    |   |

## ブータンの大学生らの福井訪問

本年8月31日～9月7日、ブータンの大学生らが福井を訪問し、県内の教育研究機関や公共施設、民間企業で科学技術とものづくりに関わる教育研究や生産の現場を見学するとともに、県内の大学生や中高生、そして県民との交流を深めました。この短期研修ツアーは、『ブー

タン王国大学生のStudy Tour 2016』と銘打って『福井の「幸福」を支える教育と産業技術』を研修テーマに福井県が企画したもので、科学技術振興機構（JST）の『日本・アジア青少年サイエンス交流事業』（さくらサイエンスプラン）の一環として実現に至りました。



県内の大学生との交流風景（福井大学のグローバル・ハブにて）

一行は、9名の大学生（シェラブツェ・カレッジの学生7名と他の2つの科学技術系カレッジの学生2名）、シェラブツェ・カレッジの引率教員2名、政府職員2名（教育省・経済省各1名）の13名からなり、県内の訪問先は、県庁に始まり、県立大学、福井大学、アオッサのFスクエア、高志高校、池田町（池田中学校など）、若狭湾エネルギー研究センター、日野川小水力発電所、めがねミュージアム、うるしの里会館、恐竜博物館、清川メッキ工業（株）、セーレン（株）、（株）シャルマン、サンオプチカル（株）、などに及びました。ブータンミュージアムにも来館し、一行は福井に当ミュージアムがあることに感銘を受けた様子でした。

大学生たちは、県立大学と福井大学ではそれぞれ複数の研究室や研究センターを見学して県内の大学での教育研究の一端に触れましたが、併せてそれぞれの大学で留学生と日本人学生との交流拠点となっているワールドカフェとグローバル・ハブを訪れて県内の大学生と交流しました。交流の機会は大学キャンパスの外でも設けられ、アオッサのFスクエアでのブータン紹介のプレゼンやラウンドテーブル、養浩館庭

園と福井市内の散策、池田町での1泊を含む2日間のバスツアーへの日本人学生の参加などを通じて、県内の大学生との交流を大いに深めました。大学生たちは、高志高校と池田中学校も訪れて中高生とも交流したほか、期間中の1泊は、県内9家庭に分かれてホームステイを体験し、ホストファミリーとの親交も深めました。

筆者は福井大学での研修の部分を中心に今回の研修ツアーの準備と実施に携わりました。その関わりから、帰国後にブータンの大学生らが送ってくれた個人レポート群や、団長を務めたシェラブツェ・カレッジ上級講師のカルマ・ワンチュクさんが記したグループレポートを読む機会を得ましたが、一行は、誰もが大いに刺激を受けた有益な研修ツアーでありとても感動した旨、また今後もこの種の交流が続けられることを望んでいる旨を吐露していました。これを一つの契機にブータンと福井の交流がいつそう進展することに期待したいと思います。

（特活）幸福の国 副理事長・福井大学教授

月原敏博



県内の大学で体験した DNA 抽出実験（福井大学の生物学の実験室にて）



## 田中 幸一

元鯖江市惜陰小学校校長  
現在、男声合唱団「ゴールデンエイジふくい」指揮者  
鯖江市老年大学講師  
同混声合唱団「ハモーレさばえ」指揮者

# 人生を左右する「心のおきどころ」

「幸せは心の持ちようで決まる」ということはどうも間違いない。90パーセント、それは真実だと自分に思い込ませている。それは、その様に思い込むほうが短い自分の人生が少しでも快適に生き抜けそうだからである。

我が家に入ると父親がいたく感動して書いたという額（写真①）がある。それはこうだ。

泣くも笑うも  
光も闇も  
心ひとつの  
おきどころ

僕はこの言葉が好きだ。そして、それは今や我が家の「家訓」になっている。

僕も今までたくさんの人と出会いいろいろ感じてきた。その中でも何人も共感したというか憧れに近い人に会い、できれば少しでも近づきたいと思ったものだ。こんな人だ。

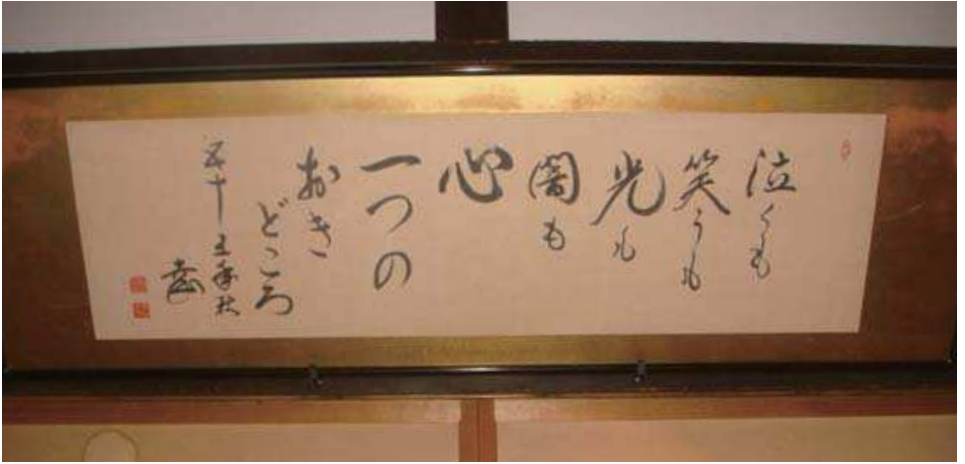
「その人の口から人の悪口を聞いたことがない人」

「物欲のにおいが全くしなく心豊かに見える人」

「自分の中にきちんとした価値観が確立していてぶれない人」

たぶんこの人たちは毎日を幸せに感じて人生を送っていることだろう。僕のような俗物にはそのような生き方をすることは決して簡単ではない。そこで思いついたのは「心のおきどころ」の練習である。意識的な訓練といってもいい。

写真①



車に乗っているとどうしても思いがけない失敗が多い。歳を重ねると回数も多くなる。特に「バック」の時の失敗が多い。先日もコンクリートの塀垣に後ろを当てた。その時だ。

「相手がコンクリートでよかった」

こんな訓練を重ねることである。

しかし残りの10パーセントは訓練だけでは解決しない。それにしても健康な日々、あたり前な日々勝るものはないのではないか。

神様、仏様を僕は見たことがない。しかし、神様、仏様を感じたことは何回もある。「そうだ、神様、仏様は自分の心の中にあるのだ。」これが今の僕の正直な気持ちだ。

今、僕が存在していることは決して当たり前のことではない。むしろ「奇跡」である。誰かが僕や家族を支えてくれている。それこそ神様、仏様ではないか。ありがたいと思う。

案外、幸せの実体とは、そういうものかもしれない。

私はある男声合唱団（写真②）の一員として、ここ10年ほど活動を続けている。この仲間たちは今の僕にとってはまさに神様仏様的な存在というか、僕を支えてくれている大切な人たちだ。

この合唱団は60歳以上の男性だけが入団資格をもつ。はじめは18人のメンバーでスタートした。合唱の経験は全く問わないことが入団しやすくしているのか、半年もしたら50人に増えていった。7か月後思い切って出場したコンクールで思いのほか高く評価されてメンバーの意気は上がっていった。

どちらかといえば楽譜を読むことは苦手なメンバーが多い。それでもみんなで意見を出し合い「ステージでは楽譜を持たないで歌おう」と自分たちであえて高いハードルを設定した。これはなかなかのハードルだ。メンバーは必死に楽譜を覚える。練習にも欠かさず参加する。未経験者だということを武器にしているとさえ思える。不器用さも時として大きな力になるのだということを強く実感する。メンバーの真剣さに僕はすごく感動する。

定年後の目標をここに定めたメンバーたちは新たな生活の核と意識しているのだろう。そして「心のおきどころ」を「うまい歌」を歌おうという方針から「心を込めたいい歌」へと無意識に「ギアチェンジ」していったのではないだろうか。

「許し合うこと」はこの合唱団の基本的な方針だ。それは「すべてを受け入れて成長してこそ本物で感動を伝えられる」という理念に通じる。

今この合唱団は、団員として仲間と活動できることに無上の喜びを感じているだけではなく、「生かし合うことに喜びを感じる集団へ」と成長していこうとしている。それが共通のモチベーションとなろうとしている。それは「つながりの力」でもある。僕にはそのように思える。

人生を大きく左右するカギは「心をどこにおくか」であると信じている。

## 写真②



男声合唱団ゴールデンエイジふくい



## 最近のクエンセル記事よりーその II

前号のブータンミュージアム通信（第 14 号）で、「ブータンの日刊紙クエンセルの日本語訳の試み」という題で、クエンセルの記事の日本語訳について、実際翻訳する際に感じた記事表現に関する苦情を述べ、その上で、2、3の記事を取り上げて紹介した。ここでは、その続きとして、最近の記事内容のいくつかについて、コメントを交えて紹介しようとしているので、上記のような題目とした。

昨年の 12 月に、10 月に JICA 理事長になったばかりの北岡伸一理事長がブータンを訪れて、日本は高い優先度でブータンの経済援助を続ける方針である、と話したことが報じられている。そのとき理事長は、ブータンは優れた経済発展をしてきたので、今後「最低レベルの援助」を必要としなくなるだろう、と述べておられる。この「最低レベルの援助（the lowest levels of assistance）」は、多分 JICA の関係者には自明な用語かもしれないが、筆者には、何を意味しているのか、はっきりとはわからない。ここで適当に解釈することにして、その国の政治において、欠かすことのできない基本的な機能を実行するための援助としておく。過去のブータンに対する大型の援助といえば、架橋建設、学校建設、道路建設重機や 1984 年から 3186 台の動力耕耘機を供与してきた KR-II 援

助計画などがあるが、これらが「最低レベルの援助」と言えるのであろうか。なお、KR-II 援助計画は、昨年で終了したになっている。

ブータンの国の財政については、外国からの援助に頼らず、自国からの歳入に頼る自立したものにしたいという願いは以前から持ち続けてきた。例えば、11 次 5 カ年計画（2013 年—2018 年）では、2018 年には、財政上で外国の援助に頼らない国にすることを謳っている。2013 年のデータで国の歳入に対する ODA の受入れ額の比率は約 25% になっている。JICA 理事長の「最低レベルの援助」の発言は、それまでのブータンの意向を反映させたものであろうと考えられる。その記事の中に、現在のツェリン・トブゲイ首相が、2014 年に日本を訪れ、日本政府に 1,450 台の耕運機の供与を要請したと報道されている。

もともとブータン調和党が率いてきた前政権が外国の援助に頼らない国の財政を築こうという方針を強く進めてきたが、2013 年に世界が驚く政権交代が起こり、国民民主党が率いる新政権が誕生した。ツェリン・トブゲイ首相をトップとする新政権は、外国の援助に頼る政治からの脱却を、前政権ほど強くは進めようとはせず、経済発展による国の総合的發展を目指しているように見える。現在は野党となった前政権の与党支持の人々は、現政権の新しい政策に対して、

時には憲法違反であるという言葉が浴びせながら、厳しく反発している。

東日本大震災など日本の国情にも依ると考えられるが、日本からブータンへの無償資金援助額は、2012年と、2013年では比較的低くなっているが、2014年度は約28億円とそれ以前と余り変わらない額に戻っている。

2016年3月に、日本がブータンに29台の救急車を贈ったことが、報じられている。2国間の国交樹立30周年を記念して贈られたとしているが、過去において、2011年と2015年に、合わせて既に55台贈っており、今回の支援は以前に決められたプロジェクトの続きであった。今回は約1.9億円の無償資金援助であり、これまでの分を合わせると5.5億円の援助となっている。救急車の贈呈式において、タンディ・ウォンチュク保健大臣は、CTスキャンやMRI装置など高度な診断技術の更なる支援を日本に求めている。

5月22日に、ブータンの橋の建設と保守のための装置や技術を高度化する目的で、今年から3年のプロジェクトの提案書が、山田ブータンJICA事務所長とGNH審議会のソナム・ワンチュク議長との間で調印された。このプロジェクトの日本の拠出額は、250万米ドル（約3億円）である。ブータンの橋梁建設については、日本からブータンへの継続的な大型援助の一つであり、最近では2015年の約20億円の無償資金協力で、ティンブーからトンサまでのハイウェイに架かる10の橋梁のうち、3橋梁を架け替えている。

5月2日の記事として、農林省が動力耕運機

のブータン全土への一様な配分は終わって、次の段階の配分の仕方を検討していることが書かれていた。すべてのゲオに配分したが、全く使われていないものがあるという、野党側の批判があった。ブータンは山国であり、棚田が多く、折角日本が多数の動力耕耘機を供与しても、役に立つ地域は限られていることは容易に想像できる。この記事の中に、カルマ・ティンレイ農林省企画局長の話として、「2017年2月までに、約400台の動力耕耘機が供与されることを期待している。そして、5月8日には、このことに関する協定を結ぶために、日本からの一行がティンブーに来る予定になっている」という発言を載せている。

10月18日、日本とブータンの大使が、日本が353台の動力耕耘機を購入する資金として2億5千万円を贈与する協定書の調印式が行われた。日本から動力耕耘機の供与についてのブータンからの要請を受けて、今年の1月に日本は、それを検討するために調査団をブータンに送るなどして調査していたが、ようやくその精査を終えて、協定書の調印に漕ぎ着けた感じを与えた。しかし、ブータンが日本に要請した耕耘機の数ももっと多かったのであるが、残りの数について、どうなっているのか、それについての記述は見当たらなかった。協定書の調印に際し、JICA関係者は、今回供与した耕耘機がどのように使われたかは、次の援助計画を決めるときの重要な判断材料になることを、ブータン側に念を押した、と書かれている。

ブータンの3代以降の国王および政府は、国の発展のために、教育を特に重要視すべき政策

として、教育の改善に尽力してきた。最近の5カ年計画でも、識字率の向上や、プライマリー・スクール（小学校）やセカンダリー・スクール（日本の中学校、高校に相当）の就学率の向上、それに高等教育、特に大学の充実などの目標が掲げられている。

発表されている第11次5カ年計画そのものには、セントラル・スクールの語句は見当たらないが、2014年にセントラル・スクールという学校改革が、2015年の学年開始から一部の学校で、進められることが発表された。これは国の小学校から高校までの普通教育機関に対する現政府が打ち出した大きな改革案であった。これまで特に人々が疎らに住んでいる地方では、通学の都合から、生徒数100人にも満たない学校がたくさん作られてきた。小さい学校では、いろいろな教育分野をカバーする教員や、十分な教育設備を確保することができず、教育の質そのものを改善することが難しい。そのため、教育省の計画としては、生徒数規模1000人ぐらいを目指して、いくつかの学校を統合し、ハード面とソフト面でも飛躍的に改善しようとしたものであった。

一部の学校についてセントラル・スクールへの移行が、2015教育年度から始まったが、2016年度も継続された。そのため今年に入っても、セントラル・スクールに関する記事がいくつか報道されていた。

もともと遠く離れていた学校のいくつかを統合すれば、地理的に通学の不可能な生徒が多数出てくる。そのために、セントラル・スクールの生徒の80パーセントは寄宿生となっている。

それぞれのセントラル・スクールに寄宿舎設備の充実をしなければならず、この点でもお金がかかる。教室での教育の質を高めることが改革の第一目標であるが、成長期にある生徒を預かる学校であるので、身体と精神の両面での健康管理にも十分な配慮を促している。

2016年1月の記事で、2017年度からセントラル・スクールの通学生徒に、制服とスポーツウェア、さらに、ゴ、ケラ、ウォンジュ、テコ、スクール靴、靴下、トラックスーツ、スポーツ靴とタオルなどを支給することを決めたと報じている。また、場合によっては、今年度から支給されるかもしれない、と教育省の関係者が言っている。非常に細かい記事ではあるが、今後更に、学校に対する財政的な支援を増加して、教育の質の向上を計る計画が述べられている。

2016年度新たに開学するセントラル・スクールに22,129人が登録予定で、既に14,998人がセントラル・スクールに登録されている。合わせると3万7千人ぐらいであるが、ブータン全体で2015年において約17万5千人が学校に登録されているというデータもあるので、これまでで、全体の約20パーセントの生徒がセントラル・スクールに登録していることになる。9月に筆者は、ブータン教育省の職員の一人に会う機会があったので、セントラル・スクールのことを聞いたところ、これ以上セントラル・スクールは増やさないという返事が返ってきた。予算が無くて増やすことができないということであった。

9月30日の記事では、ブータンの靴下メー



カーと教育省の間で、セントラル・スクールの生徒に支給する靴下の一括調達についての契約を結んでいる。価格、量、品質、納期などが、合意したとのことであった。教育大臣の言葉として、ブータンの貿易赤字が大きな問題になっているとき、国産の靴下を使うことにより輸入を減らせるので、この契約はブータンの経済にとって、とても望ましいと述べている。さらに、靴下製造会社の女性オーナーを高く賞賛した。

9月10日は、国連で決めた「世界自殺を防止する日」であり、ブータン政府は保健省が中心になって、集会を開いている。ブータンは、この少し前の「世界女性の日」にも集会を開き、「世界・・・の日」という日を忠実に守る傾向にある。しかし、国連でブータンの提案で決められたという「世界幸福の日」に何かイベントをしたという記事を筆者は見ることがない。自殺は、ブータンの死亡原因の上位6番目までに入っていて、国として非常に警戒するようになってきている。過去5年間のデータでは、年平均で72人であり、ブータンより少し人口が多い福井県が年平均140人前後で、ブータンがそれほど多い訳ではないが、最近かなり増加傾向にあり、昨年に3年間の活動計画である「国家自殺防止案」を、内閣で承認している。首相はすべてのゾンカク、政府と民間の部署、その他の機関などが、行動計画に従って自殺防止対策の活動を行うよう指示したとしている。

前王妃（皇太后）サンゲイ・チョデン・ワンチュク陛下は、全国を回って、国民の健康、社会・政治意識、地域社会の発展、各個人の豊かな生活について、啓蒙活動を行っている。10

月の始めに、チランを訪問したときの講演で、ご本人が社会のことで最も深く心配していることは、HIV/AIDSの感染者が増加していることであると述べ、さらに緊急の問題として、麻薬と自殺の増加であると強調されたと書かれていた。

（特活）幸福の国 副理事長 奥村彰二



# ブータン王国チョモラリ峰BC踏査 (福井県山岳連盟創立 60 周年及び「山の日」祝日制定記念)

福井県山岳連盟 会長 牧野 治生



無事トレッキングを終え、皆で記念撮影

## 最終章

### ブータン国トレッキング近年事情

10月30日(金) 出発 11月8日(日) 帰国の限られた条件の中でのトレッキングコースを選ぶ中で、比較的短期間のチョモラリ峰BCまでは、古城のあるドゥゲゾン村(2340m) 出発でも日数が足りなくてあきらめ懸けていたところ、2～3年前よりこの先のシャナ村・行程17km(2800m)まで車で通行可能の情報が入り、パロのホテルを早朝出発すれば、シャナに朝8時頃までに到着そこからタンタンカ

(3520m)の幕営場近くまで入山1日で行けてしまうのです。そして次の日2日目には、目的地のBCシャンゴタン(4080m)に着いてしまいます。奥地まで車道が出来た事で、徒歩1日分往路で2日短縮される事が判明。早速コース提案させて頂き了解いただいた次第です。これにより可能性がより深まり期待と想像を巡らし、結果満足の踏査が得られました。2年前だと、限られた日数の中での、このコースの選択



☐コーヒーを入れてくれるコックさん



スタッフの食事風景  
(彼らは私達とは一度も一緒に食事をしなかった)



荷物を運んでくれる馬たち



休憩時にお世話をしてくれるガイドのサンゲさん

は困難さが予想され余裕のないトレッキングになったに違いありません。

半面、帰国し考えたことは、私たちトレッキングを支えてくれたメンバー・ガイド、コック、馬方を始めとするスタッフ7名の仕事が2日分短縮により、収入も減ったに違いないと想像するようになってきて、1年を通して短縮の収入への影響は大きいのでは無いかと思いますが、分配内訳については判らない。メンバーはこの辺の地元集落で家族や馬を抱えての生活があり11月末でシーズンオフとなり、その現実を知っているガイドが、目的地BCシャンゴタンまで以前は50km近くを片道通常で4日又は健脚で3日かけてスタッフ7名馬13頭の職場であったはずが、シャナ村まで車道が通じた事により、同じスタッフで健脚コースは2日で目的地に到着出来るようになってしまい、上

部のタケタング村には携帯電話中継所や、日本のJAICが発電所や送電線の建設中に出会い複雑な思いも捨てきれない状況でありました。思い返すと入国2日目に、ガイドさんが高度順化も兼ねてタクツァン僧院(3100m)に案内、かなりのペースであまり休憩もせず、僧院が真横に見える所まで案内、そこから一旦降りて僧院の中に行くものと思ったのが、何か感じたのか、引き返して途中の休憩処で昼食となりました。チョモラリ峰BCチャンゴタン(4080m)目的地まで2日間コースを60歳近いものから小生70歳まで5名がどれぐらいの健脚力・体力かを推し量ったのに違いないと思います。一人でもトレッキング中に落伍者が出ると全体の予定が大きく変わることは避けられません。ガイドは案内責任者として、かなり熟達、ベテランとお見受けしました。流暢な日本語。食事テ





流暢な日本語で説明をしてくれるガイドのサンゲさん



出発の為にテントを片づけるスタッフ達



麓に到着時、スタッフ1人ずつへお礼



出発の準備をする馬方  
(馬の口先の袋は平等に与えられたトウモロコシの餌)

ントの中での会話内容によると 32 歳独身、来日経験があり、一度北海道へスノーボードなど体験したとの事。明快な頭脳と会話で、彼らが国を引っ張っていければ心配ないのではと思いつつ、私たちの踏査目的などを考えながら放牧民の民家を訪ねたり、学校や子どもたちへのふれあい等、状況に応じ、我々の足取り、速度を考えてのトレッキング最終日、夕食の後テントの中で、二人だけで話をしたいとの事。内容は私たちも思っていた多少のお礼の気持ちの話だったが、他の例など話題を取りあげた話を聞くうちに、私たちが思っていた額より少々高いのに気が付いたが、コック、スタッフ、馬方などお礼はガイドのサンゲさんを通じてではなく、直接本人に手渡してほしいとの事で、急遽我々のテントで打合せとなり金額を決めて最終日到着のシャナ村で我々 5 名全員が、お別れの

挨拶と共に、ひとりひとりにお礼をお渡しました。お聞きしますと、年間ブータン国へ訪れるトレッカーの数はあまり増減していない中、同じ目的コース別で入山のトレッカー隊の数は変わらないにしても、今まで 8 日～10 日間かかったものが、奥地まで道路が開通したことで、パロ滞在から 5 日～6 日間でチョモラリ BC トレッキングが可能となった。一日滞っていくらの計算方式ですと一隊あたり、今までの 30% 近くの収入減となるに違いないと想像した。原因は私たちでは無いことはよく知っている彼らは、プロ意識で黙々と仕事をこなしてくれたことに感謝。互いに笑顔で 11 月 7 日ブータンの地を離れた。

## 雑感

### 幸福度ランキングに見る福井県の姿とこれからの幸せ

(一財)日本総合研究所が、今年7月に発表した「2016年版47都道府県幸福度ランキング」によると、福井県が前回の2014年版に引き続き、再び総合で第1位になりました。いつものことながら、県民の多くはその実感が伴わないという思いでしょう。一方、県外の人々は、何で知名度の低い小さな福井県が一番なのかと不思議に思っていることでしょう。

この調査では、直接、住民に主観的な幸福の度合いを尋ねることはしていません。あくまでも幸福度を高めることにつながるだろうと思われるハード・ソフト面などの65指標から客観的に見たものです。従って、県民一人ひとりの実感とのかい離があることは否めません。

さて、今回の調査では前回のものと比べて追加指標がさらに5つ加わりましたが、少なくとも本県で見える限り、全体の結果はさほど変わるものではないようです。

福井県に関する同研究所のコメントを以下に引用させていただきます。

◀前回と比較すると、引き続き仕事分野と教育分野は1位となり、総合順位は1位であった。(中略)学校・社会・雇用領域は1位を維持し、人材育成から雇用まで一貫して充実した環境を確立しているのは福井県の強みである。教育面では「子どもの運動能力」は1位、「学力」は2位であり、子育てに最適な県のひとつと言え

る。雇用面では「女性の労働力人口比率」は1位と女性が働きやすい環境が整っており、福井県の文化や県民の考え方が大きく影響していると考えられる。

一方で、「エネルギー消費量」の少なさは46位であり、地理的特性を踏まえ、持続可能な地域を実現するライフスタイルの再点検が求められる。▶

さて、本県の各指標毎のランキングの詳細は資料(別掲)にあるとおりですが、この中で寒色系の色は評価の高い指標、暖色系の色は評価の低い指標です。また、矢印は前回のランキングと比較してやや目立った上下変動のあるものに付しています。順位の下がったもので気になるのは、「健康—運動・能力」で平均歩数が22位→31位、「文化—国際」の語学教室にかけられる金額が15位→47位、外国人宿泊者数が36位→44位、「文化—国際」全体で35位→42位、「文化」全体で38位→42位となっている点です。また、「生活—個人(家族)」で、インターネット人口普及率が19位→30位、「教育—社会」で余裕教室活用率が41位→1位などです。でも、いずれも、数値的にはほぼ同じか、多少上がっており、他県の伸びがやや大きくて相対的にランクを下げたものと考えられます。20県弱が1位になっている余裕教室活用率も前回の97%が100%に

なったということです。ただ、語学教室にける金額が大幅に落ちている点とインターネット人口普及率の数値が落ちている点は、正直、統計的に何か疑問の残る感じがします。

全体的にみると、同研究所のコメントにもありますが、仕事、教育はともに1位であり、また、生活は7位、健康は13位と4分野で上位にあります。ただ、文化の分野で42位は気になることです。書籍購入額なども36位となっています。ただ、それでは本県は読書離れ、活字離れの傾向が強いのかというと、「都道府県図書館の統計」では、福井県立図書館（分館の若狭図書館学習センターも含む）の県民一人当たり図書貸し出し冊数は平成27年度1,044冊（1を超えたのは本県のみ）で4年連続全国1位でした。書籍は買わずに借りるという傾向が強いのかも思われますが、いずれにせよ、読書離れ、活字離れは全国的な傾向と言われていています。ただ、文化への関心度について日ごろ感じるの、県内の美術館、博物館やコンサートホールなどへ足を運ばれる方が少ないように思われることです。文化水準は多くの素晴らしい事物や音楽などを見たり、読んだり、聴いたり、あるいは多くの人々と交流することで高まるものだと思います。書籍購入も含めて、そういった活動にもっと関心を向けて、自分への投資としてお金をかけることも必要だろうと思います。福井県民は経済力はあっても、その有効な使い方を知らないということも耳にします。

同研究所の過去3回のランキングで見ても、また、これまでに発表されてきた法政大学大学院などの同種のランキングづけでも、本県はい

つも1位かトップクラスです。それぞれの機関が採用する指標に多少の違いがあっても、本県のこの種のランキングは変わりません。要するに、本県は幸福を追求する基盤としての生活環境としては、決して悪いところではないということは明らかようです。北陸の天候も昔に比べて最近も雪も少なく、日照時間も多く、決して暗いイメージとは言えない気がします。私たちはこの恵まれた環境に自信と誇りを持って、さらに一人ひとりが真の幸せを実感できる地域づくり、生き方、働き方を追求するべきと考えます。

福井県がおかれた現在の社会経済状況は個人的には次のようにとらえています。本県は日本列島のほぼ真ん中の日本海に面した位置にあり、関西中京圏からも、そして、北陸新幹線が金沢まで延伸したことにより、今では関東・信越圏からも近い距離にあります。そうした恵まれた立地から企業や工場の進出もあり、また、眼鏡・繊維などの地場産業や、世界に冠たる先端技術を持った中小企業なども多く、仕事は多くあります。そのため、本県の有効求人倍率は常にトップクラスにあり本県の失業率の低さは世界一と指摘する人もいます、また、共稼ぎ率の高い本県では、1世帯当たりの所得もトップレベルにあります。また、女性が積極的に働ける背景には、近くに孫の世話をしてもらえる祖父母がいたり、幼稚園・保育園に割と問題なく入園できたりして、都会に比べて子育てしやすい環境にあることが大きいのでしょうか。1世帯当たりの所得がトップレベルであるため、持ち家比率や持ち家延べ床面積がトップレベルにあります。そうした環境とともに、学校でのきめ



細かい指導のもとで育つ子供たちが、運動能力や学習能力もトップレベルにあるのは必然なことなのかも知れません。

ところで、私たち県民にとって気がかりなこともあります。このことは本県のみならず、公共交通の整備が行き届かない地方では共通でしょうが、自動車依存社会になっていることです。ひとり1台が当たり前の本県では、1世帯で数台の車を所有している家庭もまれではありません。そうしたこともあってか、本県のエネルギー消費率46位、平均歩数31位となっています。歩かずに通勤・通学や買い物も車に乗る社会になっているのです。また、住宅にあってもオール電化などで電気エネルギーを多く消費する生活になっています。

今回の幸福度ランキングづけで、本県が連続1位ということですが、あくまでもこれは統計上そうした結果になりましたが、地方と都会の生活では多少の相違面はあっても、地方で見ると北陸はもとより、東北であれ四国、九州であれ、どこも似たような状況にあるのです。また、今回の各指標毎のランキングを見ても、1位と47位ではさほど差がないものばかりです。言わば「ドングリの背比べ」みたいなものです。ですから、私たちも今回の結果に対しても、決して浮かれたり手放しで喜べるものではありません。というのは、先にも述べたとおり、私たちが本当に実感できる幸福度は、必ずしも今回のランキングとは一致しないからです。私も含めて多くの県民、さらには国民の多くも、本当に実感できる幸福とはどんなものか、まだ十分理解しきれていない感じがします。今後も発表されるかも知れないランキング付けに一喜一

憂することなく、また、振り回されることなく、その点をやはり真摯にかつ、真剣に考え、そして真の幸福の実現に向けて日々できるところから実践していく必要があります。

わたしたちが活動するNPO法人「幸福の国」は、2012年からブータンミュージアムを運営しております。それは、幸福な国ともいわれるブータン王国の暮らしぶり、価値観、人生観などを紹介するとともに、世界の人々の暮らし方の長所を学びながら、福井、さらには日本のこれからの本当に幸せなライフスタイルや社会経済・国の在り方を考えたいとの思いからです。これは大変難しいテーマであり、私たちの活動でできることはちっぽけなことかもしれません。でも、何かを発信し続けていきたいと思っています。ブータンミュージアムは「ハピネスミュージアム」と考えております。

今年度、私たちが特に力を入れて取り組んでおりますことは、幸せを考える自主映画上映です。数年前にアメリカで制作された2本のドキュメンタリーの映画です。ひとつは「ハッピー 幸せを探すあなたへ」、もうひとつは「幸せの経済学」です。前者は、私たち一人ひとりがハッピーになるためにはどういう生き方をするといいかを考えるヒントになるものです。世界10数カ国でロケをし、世界各地のハッピーな暮らしぶりや、幸福に関する学者の知見を紹介するものです。後者は、現在の社会経済のグローバルライゼーションの流れからローカライゼーションの流れへの移行の必要性を考えさせるものです。そのためには地産地消も重要な鍵になります。

最近、残念に思うことがあります。私の住

む福井市のやや郊外では住宅や事業所などに挟まれた田んぼや畑がまだ残っているのですが、年々それがどんどん埋め立てられ、アパートや月極駐車場になっていくのです。ますます食料自給率は下がります。できることなら地主は、休暇などに農作業をしたい周辺の世帯に無料あるいは廉価な賃料で使わせてあげてほしいと思うのです。借りた人は、自分の世帯で消費する野菜などの割合かでも自給できます。また、農作業自体が楽しく、また癒しにもなり、自分が育てた野菜などはおいしく、農作業にかかる費用など問題ではありません。また、こどもは家族との農作業を通じていろんな学習が身近に体験できます。これまで現代人は自然に抗い、自然から距離を置く生活をするにより便利さ快適さを追求してきましたが、今はある程度自然と共生する生活に戻していく必要があります。その意味でも、本来、人間は農作業にもできるだけ関わる方がすべての面で人間的で本当に豊かで幸せな暮らしができると思います。

そのためには生活における時間的なゆとりも必要です。「余暇時間」の指標でみると、最高が9分、最低が8分3秒です。余裕のない生活、時間や仕事に追われた生活をしているということです。「悩みやストレスのある者の率」でみると、最低4.4%（前回4.1%）、最高5.1%（前回4.9%）です。前回と比べても数値はあがり、半数前後がストレスを感じているのです。日本ほどの高ストレス社会はないと思います。ネガティブ・ストレスのかからない生活様式への転換が必要なのです。

さて、国では現在、「地方創生」や「一億総活躍社会」、「働き方改革」などをスローガンに

掲げています。地方の有する自然や風俗、伝統習慣、文化歴史、その他の多種多様な地域資源などを生かした「地方創生」、そして男女均等に一人ひとりが夢と希望を持ち、生き生きと活動し、交流し、助け合い、そして自己実現や自己表現ができる「一億総活躍社会」、さらには、ワークライフバランスが保たれ、また、一人ひとりの個性や立場を踏まえた多様な働き方が選択できるような「働き方改革」、このような改革を早急に進めてほしいと思います。こうした国の取り組みや、国民一人ひとりの意識改革が本当に進んだ時、本当の幸福の実感とのかい離は縮まるのではないのでしょうか。

最後に、(株)日本総合研究所調査部主席研究員の藻谷浩介氏が、10月に開催された福井市での講演「福井に眠る力！」で話されたことのほんの一部を、私なりの解釈とことばで紹介して終わりたいと思います。

同氏が福井の人に、福井のいいところを聞くと、な一んにもないと言う。いやあ、そんなことはないでしょう、だって、豊かな自然もあるし、おいしい食べ物もあるし・・・と彼が言っていると、土地の人は、そんなもん、めずらしくない、あたりまえだと言う。でも同氏曰く、そんな風に言うのは謙遜どころか罰あたりだと。有難いと言わないから人口が減るのだと。自分こどもたちに、福井におってもしょうがねえから、都会の大学へ行行って都会で就職してがんばんねの、と親が言っているようではだめだと.....これからは地方が時代の最先端を行くようになるのだと・・・

(特活) 幸福の国 理事兼事務局長 栗原哲朗

(資料) 2016年版都道府県幸福度ランキングで見る福井県の状況

		現 行 指 標		先 行 指 標	
—	基本指標 ↓ 24位	①人口増加率	29位	①人口増加率	29位
		②一人当たり県民所得	20位	②一人当たり県民所得	20位
		③選挙投票率(国政選挙)	23位	③選挙投票率(国政選挙)	23位
		④食料自給率	16位	④食料自給率	16位
		⑤財政健全度	30位	⑤財政健全度	30位
↑ 健康 13位	健康—医療・福祉 ↑ 7位	①生活習慣病受療者数	13位	③産科・産婦人科医師数	11位
		②気分(感情)生涯(うつ等)受療者数	14位	④ホームヘルパー数	44位
	健康—運動・能力 ↑ 18位	①健康寿命	10位	⑤高齢者ボランティア活動者比率	14位
		②平均歩数	31位	③健康診査受診率	23位
文化 42位 ↓	文化—余暇・娯楽 ↓ 30位	①教養・娯楽(サーブ)支出額	29位	④体育・スポーツ施設数	15位
		②余暇時間	9位	⑤スポーツの活動時間	20位
	文化—国際 ↓ 42位	①外国人宿泊者数	44位	③常設映画館数	8位
		②姉妹都市提携数	38位	④書籍購入額	36位
仕事 1位	仕事—雇用 ↓ 1位	①若者完全失業率	8位	⑤NPO認定数	42位
		②正規雇用者比率	3位	③語学教室にける金額	47位
	仕事—企業 ↓ 20位	①障害者雇用率	4位	④海外渡航者率	22位
		②製造業労働生産性	26位	⑤留学生数	36位
生活 7位 ↓	生活—個人(家族) ↓ 2位	①持ち家比率	4位	③高齢者有業率	10位
		②生活保護受給率	3位	④インターンシップ実施率	1位
	生活—地域 ↓ 26位	①汚水処理人口普及率	11位	⑤大卒者進路未定者率	1位
		②道路整備率	5位	③事業所新設数	42位
教育 1位	教育—学校 ↓ 1位	①学力	2位	④特許等出願件数	13位
		②不登校児童生徒率	2位	⑤本社機能流出・流入数	39位
	教育—社会 ↓ 1位	①社会教育費	3位	③特産児童率	1位
		②社会教育学級・講座数	3位	④一人暮らし高齢者率	3位
—	追加指標 (2014年版) ↓ —	①信用金庫貸出平均利回り	12位	⑤インターネット人口普及率	30位
		②平均寿命	2位	③一般廃棄物リサイクル率	30位
	追加指標 (2016年版) ↓ —	⑥合計特殊出生率	12位	④エネルギー消費量	46位
		⑦自主防災組織活動カバー率	14位	⑤地縁団体数	9位
				③司書教諭発令率	10位
				④大学進学率	14位
				⑤教員一人当たり児童生徒数	22位
				③学童保育設置率	22位
				④余裕教室活用率	1位
				⑤悩みやストレスのある者の率	7位
				③女性の労働力人口比率	1位
				④自殺死亡者数	2位
				⑤子供の運動能力	1位
				③刑法犯認知件数	11位
				⑤農業の付加価値創出額	27位
				④労働者世帯可処分所得	7位

凡例

1位	最良
2位～10位	平均よりかなり良い
11位～23位	平均より良い
24位～39位	平均より悪い
40位～46位	平均よりかなり悪い
47位	最悪

↑ ↓ 前回の調査のランキングより気になる上下をしたもの

参考

福井県の人口ランキング	43位
福井県の面積ランキング	34位
福井県の人口密度ランキング	31位

前回 シンボル 東尋坊、永平寺、越前ガニ  
 今回 地域資源 とうろく流しと大花火大会、芦原温泉、永平寺

# アジアの 村を歩く

## マダガスカル 島の動植物



地理学的には、この島はアフリカの一部でも、この島に渡来した人たちの多くは東南アジア島嶼域の出自と考えられている

写真・文 松田宗一

(写真家・福井県大野市在住)

大型の肉食獣は存在しない

生息する動植物の8割は、固有種

一億年近く大陸から隔離された島



キツネザル





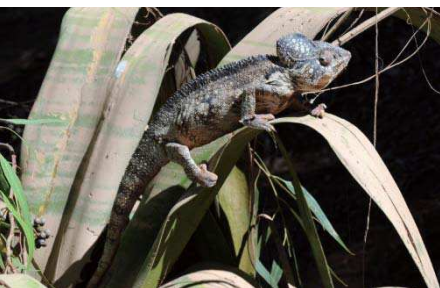
バオバブ



枝の先にカダレオン

キツネザルの群れやカメレオンは  
保護区で生態系を守られ  
住民の守り神としてのバオバブは  
人々の経済と生活に密着

(次回から「祈りの島スリランカ」を掲載いたします)



## 幸せについて考える ブータンミュージアムを運営する 仮認定 NPO 法人 幸福の国への 支援のお願い

平成28年3月18日付で、ブータンミュージアムを運営する NPO 法人幸福の国は、仮認定 NPO 法人として県内で4番目（認定2つ、仮認定2つ）の決定を得ました。今後3年間、仮認定の NPO 法人として認められます。この認定を得たことで、同法人への寄附者には税制上の優遇措置が認められることになりました。具体的にどのようなメリットがあるのでしょうか。

簡単に申し上げますと、「寄附者は寄附控除の対象になりますよ！所得税がカットできますよ！」ということになります。寄附の額、支払っている所得税の額によって還付される金額は変わります。インターネットで検索していただきますと、還付金の概算ができるサイトもありますので、ご興味のある方はチェックしてみてください。

私たちは、3年後に正式な認定 NPO 法人への昇格することを目指し、NPO 法人としてのミッション（使命）をさらに吟味し、真に幸福な社会の構築に向けた学習会や意識啓発などの公益活動を実施しております。今後も、皆様からいただくご寄附を有益に活用し、活動をさらに拡大してまいりたいと考えておりますので、仮認定を得たことを契機に、皆様にはさらなるご支援を賜りますようお願いいたします。

### 《仮認定の場合の税制優遇》

- 個人が仮認定 NPO 法人に寄附した場合に受けられる寄附金控除  
(所得控除あるいは税額控除)
- 法人が仮認定 NPO 法人に寄附した場合に認められる損金算入枠の拡大



# ブータンミュージアム活動記録

- 8月1日 BM通信14号発行
- 6日 絵手紙教室 (10:00～12:00)  
ハビネス・コンサート (12:30～16:00)
- 7日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)
- 21日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)
- 27日 BM定例会議 (13:30～15:00)
- 9月2日 ブータンから福井県への研修生 (大学生9名、引率の教授2名、政府職員2名) との歓迎交流会
- 3日 ハビネス・コンサート発表会 (12:30～17:00)
- 4日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)
- 18日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)
- 19日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)
- 25日 平成28年第一回ブータンを知る講座『ブータンの外のブータン』
- 30日 BM定例会議 (13:30～17:00)
- 10月1日 絵手紙教室 (10:00～12:00)  
ハビネス・コンサート (12:30～16:00)  
プロスピエートによるコンサート「ミュージケーション  
音安心栖 (オアシス)」 歌声広場
- 2日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)
- 8日 ブータンから福井県への伝統工芸実習生 (漆工芸分野) の  
歓迎交流会
- 12日 殿下中学校 校外学習来館
- 16日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)
- 22日 BM定例会議 (13:30～15:00)
- 23日 福井県国際交流フェスティバルに参加
- 30日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、幸せの経済学 (13:30～)



## Activities schedule これからの活動予定

- 11月1日 南条中学校校外学習来館
- 2日 市民活動紹介展に参加 (ハビリン)
- 5日 絵手紙教室 (10:00～)
- 6日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、  
幸せの経済学 (13:30～)
- 20日 ブータンミュージアム4周年記念ブレイベント
- 21日 ブータンミュージアム4周年記念イベント
- 26日 BM定例会議 (13:00～)
- 12月3日 絵手紙教室 (10:00～) ハビネスコンサート (13:00～)
- 4日 クリスマス・チャリティー・コンサート (PM)
- 10日 平成28年第二回ブータンを知る講座  
『ブータンの環境・物産の特徴と土地政策』(仮)
- 11日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、  
幸せの経済学 (13:30～)
- 18日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、  
幸せの経済学 (13:30～)
- 24日 BM定例会議 (15:00～)
- 25日 年末親睦会 (18:30～)
- 25日 自主映画上映会 ハッピー (10:00～)、  
幸せの経済学 (13:30～)
- 26日 年末年始休館 (1月3日まで)
- 1月4日 平成29年開館初日
- 7日 絵手紙教室 (10:00～) ハビネスコンサート (13:00～)
- 21日 BM定例会議 (13:30～) NPO幸福の国理事会 (15:00～)
- 22日 NPO幸福の国通常総会 (予定) (13:30～)

# 日本、福井のこれからの幸せを考える

## ～幸せを実感するために～

日本総合研究所の調査研究で、福井県が総合で幸福度全国1位と発表されました。でも、「え、ほんと？何で！」と思われる方も多いのではないのでしょうか。そもそも幸福観は人により様々でしょう。そこで、今回、幸せが実感できる、これからの生き方や社会の在り方を考える上で、ヒントになる米国のドキュメンタリー映画を2本上映します。また、現在、福井大学への留学や鯖江市河和田地区での漆技術研修のため、はじめて県内に長期滞在中の4名のブータンの方々から直接ブータンのいくつかの側面についてお話しいただきます。

2016年 **11/20(日)** 9:30～15:30 (昼休を除く)

**入場無料 | 事前申込不要 | 定員 50 名程度**

**会場：ブータンミュージアム 2階ホール**

### 第1部 映画上映 ～幸せな生き方、幸せな経済を考える～

- 9:30～10:50 「ハッピー ～幸せを探すあなたへ～」(日本語吹き替え版)  
11:00～12:10 「幸せの経済学」(英語のナレーション、日本語字幕版)

### 第2部 ブータン人からのレポート ～ブータン事情を学ぼう～

第2部は福井ライフアカデミー連携事業

- 13:00～13:10 開会あいさつ 野坂弦司 (NPO法人) 幸福の国 理事長  
13:10～13:50 レポート「ブータンの伝統工芸～漆から見たブータンと日本～」  
(40分) ベマ・レトロ氏 (ゾーリン・チュスム伝統工芸学校 木工師)  
ソナム・ベルドン氏 (漆工芸 塗師)  
14:00～14:40 トーク1「ブータンの教育制度」  
(40分) ソナム・ワンモ氏 (物理教師 福井大学教員研修留学中)  
14:50～15:30 トーク2「ブータンの男性・女性の役割と責任」  
(40分) チェドン氏 (英語教師 福井大学教員研修留学中)

駐車場について：ブータンミュージアムに駐車場はありません。近くのコインPをご利用ください。

**お問合せ (NPO法人) 幸福の国 (ブータンミュージアム)**

〒910-0005 福井県福井市大手 3-15-12 TEL: 0776-22-0011 e-mail: info@bhuman-ngo.asia



これからの日本、  
これからの福井、  
豊かな森と動植物から考える

「ブータンミュージアム」4周年を記念し、今回、ブータンから帰られたばかりの養老孟司先生（解剖学者で著書「バカの壁」で有名）、そして福井県立大学の進士五十八学長をお迎えし、これからの生き方や社会の在り方について、豊かな自然と動植物をテーマに考える。

# 養老孟司氏 講演会 進士五十八氏

2016年

11/21(月)

入場無料 | 要事前予約 | 定員 300名

開場 17:30 開演 18:00

会場 福井県国際交流会館 地下多目的ホール

## 参加方法：

参加を希望される方は、e-mail、もしくは電話・FAXにて、住所、氏名、電話番号をお知らせください。

**申込受付は先着順**となります。

(個人情報以外の目的に使用することはありません。)

## 主催・申込先

(NPO法人) 幸福の国 (ブータンミュージアム)

〒910-0005 福井県福井市大手 3-15-12

TEL: 0776-22-0011 FAX: 0776-22-0010

e-mail: info@bhutan-npo.asia

## ■プログラム

## 養老孟司氏、進士五十八氏が熱く語る！

18:00～18:05	開会挨拶	野坂 弦司 (NPO法人幸福の国 理事長)
18:05～18:40 (35分)	基調講演1 「環境福祉時代の福井は如何に！」	進士 五十八氏 (福井県立大学 学長、環境学者)
18:40～19:20 (40分)	基調講演2 「日本社会、このままで大丈夫？」	養老 孟司氏 (北里大学教授、東大名誉教授、解剖学者)
— 休憩 (10分) —		
19:30～20:30 (60分)	座談会 「豊かな森と動植物から考える」 イメージ映像上映 「ブータン ～豊かな自然に抱かれて～」	出席者：養老 孟司氏、進士 五十八氏、伊藤 弥寿彦氏 コーディネーター：月原 敏博氏 (福井大学教授、NPO法人幸福の国 副理事長)
20:30～20:35	閉会挨拶	奥村 彰二 (NPO法人幸福の国 副理事長)

## ■参加者のプロフィール

### 養老 孟司 (ようろう たけし)

1962年、東京大学医学部卒業後、解剖学教室に入る。1995年、東京大学医学部教授を退官し、同大学名誉教授に。2003年400万部を超える大ヒットを記録した『バカの壁』で毎日出版文化賞を受賞。本来の虫好きもこじつて、以前から取り組んでいる環境問題にも力を注ぐ。

### 進士 五十八 (しんじ いそや)

農学博士、造園学者・環境学者として景観政策、環境政策、地域計画で活躍。これまでに、日本学術会議会員(環境学委員長)、日本都市計画学会会長、日本造園学会会長、日本野外教育学会会長、東京農業大学学長を歴任、2013年福井県里山里海湖研究所長、2016年福井県立大学学長に就任。紫綬褒章受章、内閣府みどりの学術賞受賞。

### 伊藤 弥寿彦 (いとう やすひこ)

自然史映像制作プロデューサー、生物研究者。学習院、ミネソタ州立大学卒。20年以上にわたり自然番組ディレクターとして世界中をめぐり、数多くのNHK自然番組等を制作。主な作品に「生きもの地球紀行」、「NHKスペシャル 明治神宮 不思議の森」などがある。曾祖父は初代内閣総理大臣伊藤博文。

### 月原 敏博 (つきはら としひろ)

福井大学国際地域学部教授。地理学が専門。学部学生時の1983年に京都大学山岳部の仲間たちとブータンのスノーマントレックルートに踏み出し、生まれて初めてヒマラヤのチョモラリ峰を仰ぐ。1985年には同部が派遣した登山隊に加わって同国のマサコン峰6710mに初登頂。以来、毎年のようにブータンを訪れるブータンウォッチャー／ブータンファン。(NPO法人) 幸福の国 副理事長。

## 《駐車場のご案内》

福井県国際交流会館は、当イベント参加者用駐車場(同会館前の道を挟んで反対側の労金横)があります。ただし数に限り(数十台分)がありますのでご了解願います。(一般来館者用の駐車場はご利用いただけません。)なるべく、公共交通機関をご利用ください。



# 小玉みさをさん絵手紙作品紹介

## Part 7

ブータンミュージアムで

絵てがみ教室の講師をされています。

(毎月第1土曜日 午前10時より)



ここは天国？

きつと天国とはこのような所でしょうか

トゥムシン・ラ

3746メートル

赤やピンク、黄色のしゃくなげの花が咲き

まるで天国のようです。

40メートルも50メートルもある

しゃくなげの大木

それはそれは美しく

言葉にも絵にも描けない美しさです。

このような所へ来られて、私は幸せ。

このような所へ来られたのも

ミュージアム様のおかげ。感謝です。

ここは天国？  
きつと天国とはこのような所でしょうか  
トゥムシン・ラ  
3746メートル  
赤やピンク、黄色のしゃくなげの花が咲き  
まるで天国のようです。  
40メートルもあるしゃくなげの大木  
それはそれは美しく、言葉にも絵にも描けない美しさです。

このような所へ来られて、私は幸せ。  
このような所へ来られたのもミュージアム様のおかげ。感謝です。



ブータンミュージアムでは、現在以下の2つの映画を自主上映しています。  
いずれも各国をロケしたドキュメンタリー映画です。

「**ハッピー ～幸せを探すあなたへ～**」(約7分) ≪日本語吹き替え版で上映≫  
この映画は、幸せになるために一人ひとりがどう生きていきたいかを考えさせてくれます。

「**幸せの経済学**」(約6分8秒) ≪英語音声で、日本語字幕のものを上映≫  
この映画は、私たちが幸せに暮らすための経済社会のありようについて考えさせてくれます。

日本は世界トップクラスの物質的豊かさと便利さを享受しつつも、昨今、いろいろな課題に直面しています。こうした課題を解決し、真に豊かで幸福な社会を実現するためのヒントが多く含まれている映画だと思います。今年度の目玉事業として、以下の日程で毎月上映する予定しておりますので、一人でも多くの方々にご覧いただきたいと思ひます。

### 上映スケジュール

【11月6日・12月11・18・25日】10:00～ ハッピー／13:30～ 幸せの経済学  
【11月20日のみ】9:30～ ハッピー／11:00～ 幸せの経済学

- 《上映場所》 ブータンミュージアム ホール(2F)
- 《定員》 各回 約30名
- 《申し込み》 定員内で当日受付あり(事前予約もできます)
- 《料金》 無料(ただし、1人でも多くの方にご覧いただくため、任意でカンパにご協力いただければ幸いです。)
- 《その他》 駐車場がありませんのでご了承願ひます。近隣のコインPなどをご利用下さい。

## ハピネスコンサートへのお誘ひ

～踊って、歌って、聴いて、みんな笑顔に～

毎月第1土曜日【11月5日、12月3日、1月7日、2月4日、3月4日】

#### 第1部

12:30～(60分)

フラダンス、太極拳などの練習

#### 第2部

13:45～(90分程度)

みんなで歌おう歌声広場  
ミュージケーション音安心柄 <sup>オアシス</sup> プロスピートによる演奏



## 編集後記



ブータンミュージアム通信は、今号よりこれまでの小冊子形式を廃止し、基本的にはHP上でのデータ公開となりました。これも時代の流れというもので、書籍や雑誌のネット配信はぐっと身近なものになり、若者だけではなく、幅広い世代に定着してきたように感じます。

私が最初に電子書籍を購入した時は、紙をめくらないことがなんだか味気なく、寂しい気持ちになったものですが、そんな感傷も利便性の前ではすぐに吹き飛んでしまいました。PCかタブレットがあれば、お気に入りの書籍や雑誌をいつでも好きなタイミングで読めるのです。しかも保管場所に悩むこともありません。Web マガジンや電子書籍はいろいろと効率的で、現代社会にとってもマッチした形態なのでしょう。私はずっと紙の本が好きだと思っていましたが、改めて数えてみると、けっこうな数の電子書籍を購入し、Web マガジンの購読申し込みをしていました。

さて、このように世間的にはまずまず定着した感のあるデータ配信ですが、ブータンミュージアム通信にとっては新しい試み。今はまだ手さぐりの状態です。ネット配信することによって、これまでより多くの人に見ていただけるようになりました。今はまだ日本語のみの公開ですが、いずれは外国の言葉に翻訳し、世界中の人に見ていただけるようにしたいと考えております。もちろん、内容をもっと充実させないと。いろいろと楽しみがでてきますね。

これからも、時代の流れに取り残されないよう試行錯誤してまいりますので、中身の感想と共に、改善すべきポイントなど教えていただけると幸いです。

それでは、また次号でお会いしましょう。

(事務局 山田英代)

【発行日】 2016年 11月 1日

【発行元】

仮認定特定非営利活動法人 **幸福の国**

〒910-0005 福井県福井市大手 3-15-12

ブータンミュージアム内

TEL.0776-22-0011 FAX.0776-22-0010

ホームページ <http://bhutan-npo.asia/>

Eメール [info@bhutan-npo.asia](mailto:info@bhutan-npo.asia)

# ブータンミュージアム

〔定休日〕 毎週月曜日 〔開館時間〕 AM 11:00~PM 5:00



J R 福井 駅から徒歩約 10 分